

季節の余話

—チャドクガにご注意を—

全国農村教育協会 廣田伸七

アジサイの花が咲きだすと、日本列島は梅雨に包まれる。この時期になると「子供が公園で遊んでいたら何かの虫に刺されて皮膚に赤いブツブツができてかゆくなった」「サザンカの並木道を通ったらかゆくてたまらない」どうすればいいかといった相談が保健所などに多く寄せられる。

チャドクガの発生である。この時期はツバキやサザンカにはチャドクガがよく発生し、うっかりこれらの木に触れるとチャドクガの幼虫に刺されることが多い。

チャドクガとは文字どおり茶の害虫であるが、ツバキやサザンカ、ビワなども食害する。家庭の庭や公園、街路樹にはツバキやサザンカがよく植えられているので、6月の梅雨時になるとチャドクガが発生し、ときに大発生する年もあり、大きな社会問題になる年もしばしばである。

チャドクガは年2回発生し、卵で越冬して4月中旬にふ化。第1回の幼虫は5～6月にツバキやサザンカなどの葉の上で集団で食害

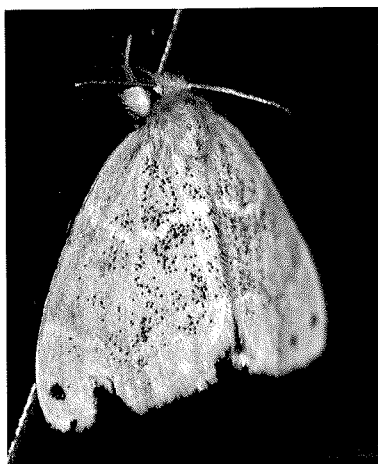
し、成長した幼虫は体長25mm程度になって6月に食餌植物の根ざわに分散して蛹化し、7月に成虫が羽化して第2回目の幼虫は8～9月に現われ、10月にまた蛹化し、成虫となって越冬卵を産むというサイクルを繰り返す。

チャドクガの幼虫は長い毛におおわれているが、人を刺すのはこの毛ではなく、体表に

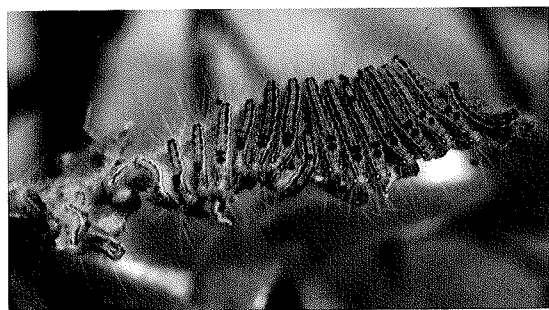
微細な毒毛針が無数にあり、この毒毛針は繭にも蛹にも付着し、さらに成虫が羽化するときには尾端にこの毒毛針を多数つけて飛び立ち、産卵後は卵塊にも毒毛針を付着させる。従ってチャドクガは卵～幼虫～成虫まで毒毛針を撒き散らせる。

チャドクガの毒毛針に触れると写真のように皮膚に点々と赤い湿疹ができ、痛がゆさが何日も続く。毒毛針が皮膚に付着した時は拭

き取らずに流水で10分間ほど洗い流してから、抗ヒスタミン剤の注射か軟膏を塗る。またはコーチゾン軟膏を塗ると効果がある。



▲チャドクガ成虫



▲チャドクガ幼虫



▲チャドクガ被害・皮膚に湿疹ができる